

予算要求資料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調整費

事業名 収蔵品データベース等システム管理費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100(内103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 396 千円 (前年度予算額： 396 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
前年度	396	0	0	0	0	0	0	0	396
要求額	396	0	0	0	0	0	0	0	396
決定額	396	0	0	0	0	0	0	0	396

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・収蔵品に関する画像や目録をデータベースに蓄積し、そのデータを活用して来館者やインターネット利用者へのサービス充実を図る。

(2) 事業内容

・収蔵品データベース管理システムの使用料

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
使用料	396	
合計	396	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ホームページにリンクした情報公開サービスを含め、現状の収蔵品データベースを維持し、最新の状態に保つとともに守秘情報の流出を防ぐ。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
入場者数		28,627	33,100	34,800		122%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>○取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで公開されていなかったデータベースの一部の公開をさらに進めた。 <p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開サービスにより来館者やインターネット利用者、さらには県民へのサービス向上となった。 ・データベースを活用した所蔵品情報紹介を行い、利用者の知的好奇心に応える情報発信を行うことができた。 ・新システムに設定されている機能を利用することにより、データ相互の関連づけを進めることができ、収蔵品活用の可能性が広がった。 ・収蔵品に関するデータの取扱いが容易になり、収蔵品管理や展覧会の運営をより円滑に進めることができるようになった。
	<p>指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %</p>

令和3年度	<p>○取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで公開されていなかったデータベースの一部の公開をさらに進めた。 ・作品3Dモデルの公開にあたり、データベースを紐づけることによって更なるデータベース活用を図った。 <p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開サービスにより来館者やインターネット利用者、さらには県民へのサービス向上となった。 ・SNSや3Dコンテンツとの連動により、休館期間中でも作品情報や鑑賞機会の提供が可能になった。 ・収蔵品に関するデータの取扱いが容易になり、収蔵品管理や展覧会の運営をより円滑に進めることができるようになった。
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和4年度	<p>○取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで公開されていなかったデータベースの一部の公開をさらに進めた。 <p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開サービスにより来館者やインターネット利用者、さらには県民へのサービス向上となった。
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	県の財産として保管している作品について、各作品の詳細情報を一括管理できるとともに、県民にその存在を知らしめることも可能であるため、事業の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	一定の管理業務が推進できている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	効率化を図るために当館独自の利便性に準じて項目や運用方法の修正を試みている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・担当者が兼任であり、必ずしも最新の状態を保つことができていない。また予算不足により作品の画像を十分に用意できていない。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けオンラインでの美術館活動へのニーズが高まるなか、データベースを活用した新たなコンテンツの開発が課題となる。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・館の主たる事業の推進のためにもデータベースの使用は不可欠であり、継続すべき事業である。また、収蔵品の内容に関する県民の興味にこたえるべく、作品情報の充実や、その発信に取り組んでいく。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	